

< 研究成果の紹介 >

集落の農業計画づくりを支援する「営農戦略策定システム」の開発

農業研究部地域経営グループ

1. 成果の内容

集落農業の現状と将来像としてのモデル集落について、農地の利用状況を圃場図として作成したり、その経営試算が簡単にできるコンピュータシステムを開発しました。

(1) できること

現状の集落の状況及び担い手に農地を集積したり作業受委託を行った場合、担い手と出し手のそれぞれについて経営指標値を使い経営試算を行います。このとき、農地の状況を圃場図として表示することができます。また、地図表示機能は単独の地図システムとしても使用できます。

集落座談会などで今後の集落の水田農業をどのように展開していくのかについて話し合うような場合に、住民の判断材料となる資料が作成できます。

(2) 準備すること

本システムの集落診断シミュレーション（経営試算）を行うには細かなデータは無くても利用することはできますが、農家単位での試算を行うには各農家の経営耕地面積、稲麦大豆の作付け体系等、経営体個々のデータが必要になります。

地図システムでは必ず圃場を登録する際に下地図となる地域の地図を用意する必要があります。また、登録する圃場の面積、所有者、耕作者等の圃場属性

データが必要となります。

(3) 作業の流れ

本システムは集落診断シミュレーションシステムと地図システムの2つのサブシステムから構成されています。本来は集落診断シミュレーションによるモデル集落の作成とその経営試算を行い、さらにその圃場状況を地図システムにより表示し確認することになります。しかし、それぞれのサブシステムは単独でも稼動しますので必要に応じてご利用下さい。

なお、各システムを利用する前に農家基本台帳の登録をお勧めします。この台帳データは地図システムでは必ず必要となり、圃場の所有者、耕作者名を入力するときのマスタデータになります。また集落診断シミュレーションシステムでは経営体の名称入力作業を省力化します。

2. 技術の適用効果と適用範囲

地域農政業務に携わるJA、市町村、普及等の農業関係指導機関の担当者を対象としたシステムです。

3. 普及・利用上の留意点

本システムは三重県及び三重県が承認する機関に使用許諾が与えられます。利用にあたっては農林水産経営企画課にお問い合わせ下さい。

(梶谷 斉)

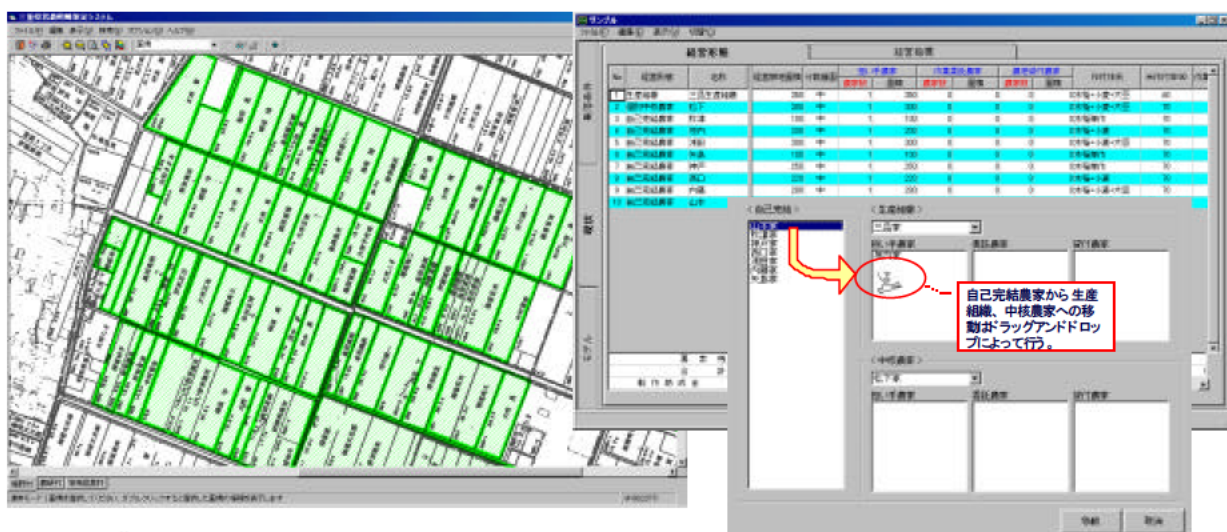


図 営農戦略策定システム画面の一例